

格安スマホ、広がる値下げ

HIS系、料金4割安

回線利用コスト圧縮で

格安スマホの料金引き下げが広がってきた。エイチ・アイ・エス（HIS）の子会社は、通話放題とデータ通信で1カ月2480円（税抜き）の新料金プランを投入する。従来の主力プランに比べ4割安。日本通信も同額のプランを7月から始めている。NTTドコモからの回線レンタル料を減らす総務省の裁定が背景にある。世界的に割高な日本の携帯料金の下落が進んでいる。



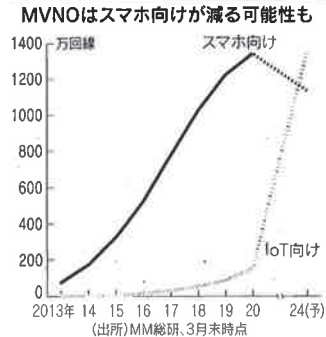
通信料金の下落は消費者にも恩恵だ（ビックカメラ有楽町店の格安スマホ売り場、東京都千代田区）

新たなサービスはHISモバイル（東京・港）の3980円に電話通話放題オプション（1カ月700円）を組み合わせた1カ月5680円。HISモバイルの新サービスは、これまでの半額以下だ。HISは2018年創業で、HISが6割出資する。契約回線数は数万件のデータ通信を行った場合、料金が約4割安くなる。通信大手に比べても低価格だ。ドコモの代表的なプランでみると、3割安。万回線の新規契約を目標とする。

格安スマホは音声通話が割高だった

音声通話料	基本料+データ通信料
電話かけ放題のオプション 1700円	20円/30秒の従量課金
3980円 携帯大手	2480円 HISモバイル新プラン
	2400円 HISモバイルピタップラン

(注) データ通信量を月3ギガバイト、音声通話を60分利用する場合の1カ月の通信料。携帯大手はNTTドコモの代表的なプランと比較。ピタップランはデータ通信3ギガバイトまでが安く5ギガバイトまでの料金



低料金を支えるのは、6月の総務省裁定を受け、ドコモによる通話回線の利用料の引き下げだ。HISモバイルは現在の30秒あたり14円の回線料を総務省の裁定で半額に引き下げた。総務省によると、3万件以上の契約数を持つ格安スマホの事業者は約60社ある。「ドコモ回線を借りる業者は50社程度」（関係者）とされる。

国は「裁定追い風」を捉え、総務省による、3万件以上の契約数を持つ格安スマホの事業者は約60社ある。「ドコモ回線を借りる業者は50社程度」（関係者）とされる。

日本通信は7月、通話し放題とデータ通信を組み合わせた月2480円のサービスを開始した。インターネットシェアのほかに、USEN IN EXTERNAL HOLDING Sとヤマダ電機が出資するV・U・Mobile（ワイユームビル、東京・品川）も日本経済新聞に対し、割安な通話放題プランを検討していることを明らかにした。営業部長は「これまで「携帯料金は4割程度値下げできる」と発言し、通信業界に料金引き下げを促してきた。総務省が調べた世界6都市のスマホ利用料金は、毎月65分の通話と5ギガのデータ通信のプランで東京はニューヨークに次ぎ2番目に高かった。MM総研（東京・港）によると、仮想移動体通信事業者（MVNO）と信託業者（MNO）との間の料金を割り引くといった販売競争が激しく、利益をあげにくい。ある回線。携帯電話市場全体の8.2%にとどまるものの、格安スマホで値下げが広がれば「遅かれ早かれ大手も料金プランを見直さざるを得ない」（業界関係者）との見方がある。

世界的に割高とされる通信料金の下落が進む可能性がある。販売競争激しく、一方、値下げ競争が広がれば格安スマホ業界は経営体力を奪われかねない。顧客確保へ一定期間の料金を割り引くといった販売競争が激しく、利益をあげにくい。ある回線。携帯電話市場全体の8.2%にとどまるものの、格安スマホで値下げが広がれば「遅かれ早かれ大手も料金プランを見直さざるを得ない」（業界関係者）との見方がある。

最近、撤退の動きも出ていた。19年にDMM.com（東京・港）が格安スマホ「DMMモバイル」を楽天モバイルに売却した。カルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）もフリービットと格安スマホ「ドコモモバイル」を手掛けているが、CCCはフリービットとの資本業務提携を解消することで格安スマホから撤退した。MVNO市場は24年に2485万回線と今年3月末の1.7倍になるとの業界推計もある。ただ呼び水になる可能性もあ（藤井太郎）